

香川高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	数値解析
科目基礎情報					
科目番号	221246		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電気情報工学科 (2019年度以降入学者)		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	CとJavaで学ぶ「数値シミュレーション入門」, 峯村吉泰, 森北出版株式会社				
担当教員	重田 和弘				
到達目標					
多くの授業では、代表的な問題を解析的に解いている。しかし、電気・電子・情報工学における具体的な現象を考える場合、難解な数学を扱い解析的に解くのが困難なことが多い。本科目では、解析的に解くのではなく、数値的に解くための様々な手法を紹介し、数値解析に必要とされる基本的な考え方を理解しながら、確かな応用力を高めることを目標とする。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
数学的な理解	授業内容に関して、各種の数値計算の原理を確実に説明でき、かつ筆記で簡単な計算ができる。		授業内容に関して、各種の数値計算の原理を説明でき、筆記で簡単な計算ができる。		授業内容に関して、各種の数値計算の原理を説明できない。筆記で簡単な計算ができない。
数値解析的な実践	授業内容に関して、各種の数値計算をC言語やエクセルを正しく扱うことができ、かつ正しく計算できる。		授業内容に関して、各種の数値計算をC言語やエクセルを扱うことができる。		授業内容に関して、各種の数値計算をC言語やエクセルを扱えない。計算できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	多くの授業では、代表的な問題を解析的に解いている。しかし、電気・電子・情報工学における具体的な現象を考える場合、難解な数学を扱い解析的に解くのが困難なことが多い。本科目では、解析的に解くのではなく、数値的に解くための様々な手法を紹介し、数値解析に必要とされる基本的な考え方を理解しながら、確かな応用力を高めることを目標とする。				
授業の進め方・方法	各種数値解析技法の原理やアルゴリズムを説明した後、エクセルやC言語によるプログラミングを用いて実習し、その挙動を確認する。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス, 数値シミュレーション, 誤差	数値シミュレーションにおいて生じる誤差の考え方を説明できる。	
		2週	数値解析における誤差の例	数値シミュレーションにおいて生じる誤差の考え方を説明できる。	
		3週	非線形方程式の解法 (線形反復法, ニュートン法)	線形反復法やニュートン法の原理を説明でき、方程式の解を数値的に計算できる。	
		4週	連立1次方程式基礎, ガウスの消去法	ガウスの消去法について原理を説明でき、数値的に計算できる。	
		5週	連立1次方程式ガウスの消去法, 演習	ガウスの消去法について原理を説明でき、数値的に計算できる。	
		6週	連立1次方程式反復法 (線形反復法)	反復法について原理を説明でき、ガウスの消去法との違いを説明できる。また、数値的に計算できる。	
		7週	連立1次方程式反復法(ガウスザイデル法)	反復法について原理を説明でき、ガウスの消去法との違いを説明できる。また、数値的に計算できる。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	返却 固有値	ヤコビ法の原理を説明でき、固有値や固有ベクトルを数値的に計算できる。	
		10週	固有値(実習)	ヤコビ法の原理を説明でき、固有値や固有ベクトルを数値的に計算できる。	
		11週	固有値(例題) ラグランジュ補間	電気回路における固有値問題として適用できる。	
		12週	ラグランジュ補間 (例題)	補間と近似の違いを説明でき、離散データからラグランジュの補間多項式を求めることができる。	
		13週	近似 (最小二乗近似)	最初二乗近似を説明でき、離散データから近似方程式を求めることができる。	
		14週	数値積分と数値微分	シンプソン則の原理を説明でき、離散データから積分値を数値的に計算できる。	
		15週	微分方程式	常微分方程式を数値的に計算できる。	
		16週	返却, 解説		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合		試験		合計	
総合評価割合		60	40	100	
数学的な理解		60	0	60	

